

平成29年度 鬼怒中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

（1）基本目標

確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた「生きる力」をはぐくむ。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

○ 気力あふれる生徒 ○ 創造性を伸ばす生徒 ○ 心の豊かな生徒 ○ 進んで仕事をする生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

（1）目指す学校像

- 活力に満ちた明るく、楽しい学校
- 互いを認め合い、思いやりのある学校
- 保護者・地域から信頼される学校

（2）目指す教師像

- 高い指導力と愛情をもって、生徒と向き合える教職員
- 生徒のよさを認め、伸ばす教職員
- 協調性に富み、責任感のある教職員

3 学校経営の方針（中期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

生徒を中心とした活力に満ちた明るく、楽しい学校づくりを目指し、全教職員が和と協力、熱意、人間尊重の精神を基盤に『生きる力』をはぐくむ教育に取り組むとともに、地域と連携・協力し特色ある学校経営を推進する。

- （1） 確かな学力の育成・・・コミュニケーション能力を高める活動を通して、学ぶ楽しさや意欲等の情意面の高揚を図り、自ら学び自ら考える力を育むともに基礎基本の確実な定着を図る。
- （2） 豊かな心の育成・・・生徒が活躍できる場の設定と異年齢集団活動及びボランティア活動の充実を図り、心豊かな生徒の育成に努める。
- （3） 安全指導の徹底と健康体力の増進・・・登下校の安全の徹底を図るとともに食育及び心身の健康に関する指導の充実を図る。
- （4） 特別支援教育の充実・・・全教職員の共通理解のもと、配慮が必要な生徒に対して組織体制を確立し、連携協力して指導する。
- （5） 小中一貫教育の推進・・・地域学校園の部会組織を見直すとともに、小中が抱える共通の課題を明確化し連携して解決を図る。
- （6） 家庭・地域との連携強化・・・学校教育への理解を深めるため、家庭や地域に情報を積極的に発信するとともに、生徒の地域行事への参加を促す。
- （7） 教職員の資質の向上・・・自らが課題を意識し、教育のプロとしての自負と責任をもちコンプライアンスを遵守する。また、授業力の向上に努める。

[鬼怒地域学校園教育ビジョン]

自立 ～よりよい判断をし、学習や学校生活に意欲をもって取り組む子どもの育成～

4 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- 【 学 校 運 営 】・創意と調和のある教育課程の編成・実施するとともに学校課題の解決に努め、教職員が一致団結しての学年・学級経営にあたり、信頼される学校づくりを推進する。
- 【 学 習 指 導 】○基本的な学習態度を身に付け、主体的に学ぶ生徒の育成に努めるとともに、言語活動の充実を図り、基礎・基本の確実な定着を図る。
- 【 児 童 生 徒 指 導 】○日常生活の中で優しい心を培うとともに集団生活を通して互いを認め合い、人を思いやる態度の育成を図る。
- 【健康（体力・保健・食・安全）】○進んで運動に親しむ態度の育成と、安全で心身が健康な生活を送る態度の育成を図る。

5 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
学校運営の状況	A 1 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 「私は今の学校が好きである」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	① 生徒会の活動時間を定期的に確保し、生徒主体の活動を促進していく。 ② 互いに認め合い、励ましあえるような目標や活動内容を意図的に設定する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答が、90%を超え昨年度より5ポイント上昇し目標を達成できている。 【次年度の方針】 ①生徒主体の生徒会等の活動を推進するため、活動時間の工夫を図る。 ②互いに認め合う活動や一人一人の生徒が企画や運営に参加するよう目標や活動内容を意図的に設定する。
	A 2 教職員は、組織の一員として熱心に教育に当たっている。 【数値指標】 「先生方は大切なことを熱心に指導してくれる」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	各種テスト等の結果をもとに、生徒の実態に即した指導の充実を図り、学習習慣や基礎学力の定着を目指す。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答が96%で昨年度より約4ポイント上昇した。 【次年度の方針】 生徒の回答と各種テストの結果にずれがあるため、今年度と同様、生徒の実態に即した指導の充実を図り、確実な基礎学力の定着、学習習慣の確立を目指す。
	A 3 生徒は、授業と生活のきまりやマナーを守り、秩序があり安全な学校生活をしている。 【数値指標】 「生徒は授業と生活のきまりやマナーを守って生活している」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	家庭との連携を図りながら、継続して基本的なルールやマナーを根強く指導していくとともに褒めて伸ばす指導の充実を図る。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答が85%を超え、昨年度からは約13ポイント向上した。 【次年度の方針】 家庭との密な連携を図りながら繰り返し基本的なルールやマナーの定着を図る。そのためボランティア活動への参加、地域行事への参加を促し、学校外での実践的活動や褒めて伸ばす指導のさらなる充実を図る。
	A 4 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細やかな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 「先生方の授業は、わかりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	① 各教科で重点目標を検討し、目標達成に向けての学力向上プランを策定、実践していくために共通認識・共通理解を図る。 ② ホームページや各種たより等で学校の取組を繰り返し発信するとともに、家庭の協力を継続して呼びかけていく。	B	【達成状況】 生徒の肯定的回答が91%を超え、昨年度より6ポイント上昇した。 【次年度の方針】 ① 生徒の回答と実際の定着度に誤差があるため、各学年、各教科で授業実践を通しての連携の拡充を図る。 ② ホームページや学習指導通信等を基に学校での取組や現状について家庭とのさらなる協力を図る。
	A 5 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	① 学校の取組について定期的、積極的に情報提供していく。 ② 学校生活全体を通して、人権意識の向上を図り、生徒会によるいじめ撲滅キャンペーンを企画する。	A	【達成状況】 生徒の肯定的回答が約96%となり、昨年度より5ポイント上昇した。 【次年度の方針】 ① 学校の取組について、家庭や地域に積極的に情報提供をするとともに、生徒による人権意識の向上を図る活動を生徒とともに、企画し運営の支援を行う。

A 6 日課、授業、学校行事などの教育課程は、適切に実施されている 【数値指標】 「学校の日課、授業、行事などは適切に実施されている」 ◎教職員の肯定的回答 80%以上	学校行事などについて、実施後の振り返りを着実にを行い、問題点の洗い出しや改善策の検討を行い、改善を図る。	【達成状況】 教職員の肯定的回答が約 98%で、昨年と変わらない結果であった。 【次年度の方針】 学校行事などについて、実施後の振り返りから、問題点や改善策の検討を行い、一層の共通理解等、改善を図る。
A 7 学校の公開や情報の積極的な発信・提供が行われている。 【数値指標】 「学校は学校便りや学校公開などで積極的に情報を発信・提供している」 ◎保護者の肯定的回答 80%以上	① ホームページの定期的な更新や内容の充実に継続して努める。 ② 悪天候に伴う登下校時刻の変更等の連絡については、迅速にメール配信を行う。	【達成状況】 保護者の肯定的回答が約 92%であり、昨年と変わらない結果であった。 【次年度の方針】 本年度と同様、ホームページの定期的な更新や随時更新等積極的に情報提供につとめる。また、メール配信を活用し緊急時の対応等を図る。
A 8 学校と家庭・地域・企業等との連携・協力を図った学校づくりが推進されている。 【数値指標】。 ◎地域住民の肯定的回答 80%以上	地域団体と地域連携教員及びコーディネーターとの連携が深まり、活動の充実が見られたので、PTA とともに連携した特色ある学校づくりとして定着するよう努めていく。	【達成状況】 地域住民の肯定的回答が約 88%であるが、昨年より 13%低下した。 【次年度の方針】 地域団体と地域連携教員及びコーディネーター、PTA との連携を深め、ともに連携した特色ある学校づくりとして定着するよう努めていく。
A 9 校内は、学習にふさわしい環境となっている。 【数値指標】「学校は清掃が行き届き学習しやすく潤いのある環境である」 ◎保護者の肯定的回答 80%以上	① 無言清掃を導入し、生徒が自ら考え主体的に取り組める清掃指導を目指す。特に教室環境とトイレの環境改善に努める。 ② 緑化委員による花壇やグリーンカーテンの整備、教室内の植物を充実させる。	【達成状況】 保護者の肯定的回答が約 88%であり、昨年度より 3ポイント上昇した。 【次年度の方針】 黙働清掃を継続実施し、生徒が自ら考え主体的に取り組める清掃指導の充実を目指す。特に教室環境とトイレの環境改善に努める。 また、緑化委員による花壇やグリーンカーテン、フラワーロードの整備、教室内の植物を充実させる。
A 10 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 「学校は、小学校と中学校が連携した取組を主体的に行っている」◎教師の肯定的回答が 80%以上	① 地域学校園としての連携のあり方を見直し 9 年間の発達段階に応じたキャリア教育、学習指導、児童生徒指導の計画を修正・改善する。 ② 教科等の連携について実践化され日々の授業に生かしていく。	【達成状況】 ◎教職員の肯定的回答が約 93%であった。 【次年度の方針】 ◎地域学校園としての連携を 9 年間の発達段階に応じたキャリア教育、学習指導、児童生徒指導の計画を修正・改善する。 ◎小中の教科等の連携について実践化され日々の授業に生かしていく。 ◎生徒に小学校との関わりを意識するように情報発信を行う。

	B 1 社会性を育む生徒指導の推進に努めている。 【数値指標】 「生徒は登下校の際、交通ルールやマナーを守っている。」 ◎教師の肯定的回答 80%以上	① 交通マナーやルールの徹底に向けた指導を強化するとともに、通学路の整備・見直しを進め、家庭との連携を図り協力を求めている。 ② 危険箇所については、保護者、地域からも行政に働きかけてもらう。	B 【達成状況】 教職員の肯定的回答が70%であった。 【次年度の方針】 交通マナーやルールの徹底に向けた指導を重点に行うとともに、生徒が主体的に委員会等のルールやマナーについての取組を行うよう企画する。 また、危険箇所については、通学路の整備・見直しを保護者、地域からも行政に働きかけてもらう。
教育活動の状況	A11 生徒は、進んであいさつをしている。 【数値指標】 「生徒は時と場に応じたあいさつをしている」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	大きな声ではっきりとあいさつができるよう、登下校時や授業・部活動等で継続指導していくとともに、生徒会での挨拶運動の充実を図る。	A 【達成状況】 生徒の肯定的回答が90%であり、昨年度より5ポイント上昇した。 【次年度の方針】 大きな声ではっきりとあいさつができるよう、登下校時や授業・部活動等で継続指導していくとともに、生徒会での挨拶運動を計画的に実施し、充実を図る。
	A12 生徒は、正しい言葉づかいをしている。 【数値指標】 ◎地域住民の肯定的回答 80%以上	時と場や相手を考えての言葉づかいについて、生徒会等を使って啓発していき、道徳の授業との関連や家庭との連携も図り指導していく。また、教師自らが率先する。	A 【達成状況】 地域住民の肯定的回答が95%を超え、昨年度より約4ポイント上昇した。 【次年度の方針】 時と場や目的、手を考えての言葉づかいについて、生徒会等を使って啓発していき、道徳の授業との関連や家庭との連携も図り指導していく。また、教師自らが率先する。
	B2 部活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	心・技・体のバランスのとれた生徒の育成を目指し、継続して意欲的、自主的に取り組めるよう活動の充実を図る。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が95%を超えている。 【次年度の方針】 心・技・体のバランスのとれた生徒の育成を目指し、継続して意欲的、自主的に取り組めるよう活動の充実を図る。
	A13 生徒は、進んで運動する習慣を身に付けている。 【数値指標】 「生徒は休み時間や放課後など進んで運動している。」 ◎教職員の肯定的回答 80%以上	体育館活用プロジェクトやいじめ撲滅バレーボール大会等、イベントを適度に織り交ぜながら、進んで運動しようとする意欲をさらに高めていく。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答が約88%で、昨年より3ポイント向上している。 【次年度の方針】 体育祭等、生徒会や専門委員会のイベントを適度に織り交ぜながら、進んで運動しようとする意欲をさらに高めていく。また、生徒が使用できる運動用具の充実を図る。
	A14 生徒は、栄養のバランスを考えて食事をしている。 【数値指標】 「自分は、好き嫌いなく給食を食べている。」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	昼の放送、家庭科の授業を通して、食に対する関心を高めさせるとともに、保健だより、食育だより等で、栄養指導について家庭との連携を図る。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が76%であるが、昨年度より約8ポイント上昇した。 【次年度の方針】 保健体育や技術・家庭科の食育指導において、栄養が成長や運動に深く関わることを様々な機会に指導していく。また、給食の献立や調理方法にも工夫を図る。

学 習	B3 体育の授業や学校行事各種大会を通して自分の健康・体力保持増進に対する関心を深めている。 【数値指標】 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	外部講師による各種講話を継続し、自分の健康に対する関心を高めるとともに、学校行事や部活動等に目標をもって取り組ませ体力増進の意欲を深める。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が94%を超えている。 【次年度の方針】 健康診断や新体力テストの結果をもとに自分の健康に対する関心を高める。また、学校行事や部活動等で自分自身の目標値を設定させ、体力の維持・増進を図る。
	A15 生徒は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「生徒は授業中に進んで話し合い、分かりやすく発表するなど積極的に学習している。」 ◎教職員の肯定的回答 80%以上	① グループやペアで互いに深め合い、学び合うなど生徒の主体的な学習場面を多く設定し、学習意欲の向上を図る。 ② 言語活動の充実を目指し、話し合う活動を意図的に取り入れていく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が約80%で、昨年度より19ポイント上昇した。 【次年度の方針】 グループやペアで互いに深め合い、学び合うなど生徒の主体的な学習場面を多く設定し、学習意欲の向上を図る。また、言語活動の充実を目指し、話し合う活動を意図的に取り入れ深まりのある授業展開の工夫を図る。
	A16 生徒は、落ち着いて学習に取り組んでいる。 【数値指標】 「生徒は授業中に先生や友達の話をよく聞くなど、落ち着いて学習している。」 ◎生徒の肯定的回答 80%以上	話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育てるとともに、教室の学習環境の整備に努める。また、基礎・基本事項の反復学習を行う。授業のあり方についても教職員での共通理解を図る。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が約78%であり、昨年度より5ポイント上昇した。 【次年度の方針】 話す・聞く・考えるといった学ぶ力や学習に取り組む態度を育てるとともに、教室の学習環境の整備に努める。また、基礎・基本事項の反復学習を行う。授業の展開やワークシートについても教職員での共通理解を図る。
	B4 学校は、宿題を出したり、学習計画を立てさせたりして、学力の定着に努めている。 【数値指標】 ◎教職員の肯定的回答 80%以上	① 学力定着について数値目標を立て、達成のための具体策について、学年や教科で検討・実践していく。 ② 家庭学習の方法についても、積極的に生徒・家庭に紹介していく。	A 【達成状況】 教職員の肯定的回答が約96%であった。 【次年度の方針】 生徒の肯定的回答も91%と一定の評価をしながら、家庭での学習内容を検討し基礎・基本の定着が目に見えるような形での評価法を工夫する。
本校の特色・課題等	B5 地区内各種ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。 【数値指標】 「生徒は地域での美化活動や地域の行事・ボランティア活動に積極的に取り組んでいる。」 ◎生徒の肯定的回答80%以上	地域連携教員とコーディネーター等の連携を図り、地域の行事の日程と部活動の練習計画の調整を図る。また、事後報告等を充実させ、保護者等に発信していく。	B 【達成状況】 生徒の肯定的回答が87%であった。 【次年度の方針】 地域連携教員と地域協議会コーディネーター等との連携を図り、地域の行事の日程と部活動の練習計画の調整を図る。また、事後報告等を充実させ、保護者等に発信していく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・全体的に昨年と比べ、肯定的回答のポイントがほぼ全てにおいて向上した。昨年度みられた保護者の肯定的回答との差が狭まり、昨年度の課題となった共通質問の No5 については、保護者のポイントが18ポイント程度向上している。これは、学校の取組について、保護者会やホームページ、各種たより等で積極的な情報発信を継続してきたことと、それにより、保護者の方の興味や関心も高まってきていると考えられる。次年度以降も継続を図る。

○学力面については、基礎・基本の定着が小学校でも課題となっている。小・中の連携を図った学力向上に向けての取組を継続するとともに、一緒に取り組んでいるということも情報を発信していく。

6 学校関係者評価

- ・学校全体が良い方向に向かっているのを感じる。学校の取組が保護者や生徒にも浸透してきて、昨年度より向上した項目がほとんどである。いじめの取組等は保護者の肯定的回答が19ポイントと大幅に向上しているが、次年度も継続して周知に取り組んでほしい。
- ・学力向上については小学校も共通しており、落ち着いた学習環境やわかる授業の展開が大切である。また、放課後等を活用した補充授業を次年度もさらに力を入れていく必要がある。
- ・地域学校園での小中の生徒の取組意識の低さを解消するためには、あいさつ運動や壁新聞などの取組を展開するの一つの方法である。
- ・自転車の交通ルールの徹底やマナーの向上についてはさらに継続して取り組んでほしい。
- ・生徒と地域のつながりという観点からも、地域の行事におけるボランティア活動は今後も継続してほしい。地域として大変助かっている。その際は、地域コーディネーターの十分に活用してほしい。
- ・生徒の良さが強調されているが、表面上ばかりでなくネット世界で何が行われているかを大人が知り、生徒や保護者に警鐘を鳴らすことも必要である。

7 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 学力向上や基本的生活習慣については、今後も地域学校園で具体策を検討しながら連携して指導していく。特に小中連携に関しては小中児童生徒の意識を高めるため、あいさつ運動での小学校への中学生訪問、学校紹介壁新聞の交流等地域学校園間の取組を企画し、事後は積極的に生徒、保護者、地域に学校ホームページ等を活用して周知していく。
- ・いじめに関する学校の取組については、保護者へさらに積極的に情報公開を図る。
- ・自転車通が初関するマナーについては、保護者や地域の協力が必要不可欠であり、地域協議会の協力を得て、自治会の回覧板等を通じ状況を知らせながら協力を呼びかけていきたい。
- ・生徒のボランティア活動については、さらなる充実を図るため地域コーディネーターを十分に活用し、学校・生徒・地域の連携と調整を図っていく。
- 部活動と地域行事の調整を図る意味でも、地域学校園のカレンダーの作成を考えていきたい。